

◆たけべおこしプロジェクト

岡山市北区建部町に暮らす 20 代から 40 代のメンバーが集まり地域で活動をしている。歴史も深く、豊かな自然に恵まれた街だが、現在は人口 5700 人を切り高齢化率 43%。昨年誕生した赤ちゃんが 10 名未満である。少子高齢化を通り越し人口減少という課題に直面し、このままではいけない! どうにかしたい! と若者らしい発想と行動力で町おこしの活動している。

◆たけべ未来塾

2 年前から、岡山県教育委員会「若者が主役! 地域まるごと活性化事業」の委託事業として『たけべ未来塾』を実施し、1 年目は、たけべの魅力満喫できるデートコースを企画した。「食べ歩き編」「体験編」と作り、モニターを募集し体験を実施。企画を通して、建部の魅力を若者に届ける媒体がないと気づき、無いなら作ってみようと、「食べ歩き」冊子・「体験」パンフレットを作成。2 年目には冊子作成でつながった人たちと一緒に「マルシェ」を開催しようと企画。そして 5 月には『ちっちゃ市』、11 月には規模を拡大した『たけべマルシェ』を開催した。

◆たけべマルシェ開催 (2016 年 11 月 20 日 開催)

建部町文化センター裏の河川敷にある建部町親水公園にて実施。今回は文化センターで行われる建部町文化祭とも連携して実施する予定で、10 店舗程度の小規模なマルシェを開く予定だった。そこに岡山市建部支所から『山陽新聞社健康ウォーク』という 500 人以上の人が町内を歩くイベントの昼食会場を任せたいと依頼された。奇しくも『ちっちゃ市』を開く予定の日と同日で、いつかは大きなマルシェの実施にたどり着きたいとイメージをしていたので受けることになった。

【目的】

① テーマは『オール建部』

建部の環境に配慮し資源を活かし、「たけべの大切なもの・何を残したいか」を考えるきっかけの場にしたい

② 子供達に関わるマルシェ

「一人一人の力を信じて動けば変わると、挑戦できる大人になってほしい」そんな思いを込めて、子供達に挑戦ができる場を作り、楽しむこと、ここで暮らすことの素晴らしさを伝えたい

【方法】

- ・ 出店者は建部にゆかりのある人
- ・ 農作物が豊富な町として、できる限り地元産のものを使う
- ・ 山や川といった自然を守り、次世代の子供達へバトンを渡せるよう、できる範囲で環境に優しい容器や袋の使用をお願いする
- ・ 企画イベントは地元の子が主役として舞台に立ってもらう
- ・ 『子供ちっちゃ市』として子供達にもお店を出してもらい、大人と一緒にマルシェを体感してもらう

【工夫したこと・結果】

- ① 出店者を探すために、先輩方からリストを頂き、これまでに町内でのイベントへ出店経験のある人々に声をかけて回った
→ 建部にゆかりのある 2 3 店舗が出店
- ② 中学校、小学校、保育園と連携できないか、マルシェの中で関わってほしいと打診

→小学校・保育園に、建部の好きな場所や場면을絵に描いてマルシェを彩るポスターを書いてもらった

→中学校では生徒会会長から「たけべおこしメンバーと一緒にダンスパフォーマンスをしてみたい！」と返答をもらい、一緒にチャレンジした。

③ 『子供ちっちゃ市』は初の試みだったため、知り合いの親子に説明をし理解賛同頂いた方に
出店のお願いをした

→小学生を中心に7人の子供達が自分たちの手で作ったもの（粘土バッチ、UV レジンアクセサリ、クッキー、他）を販売

【公民館の役割と連携】

マルシェの開催のため、定期的に会議を行った。仕事後でも公民館は夜まで開いており、気軽に集まれる場所になっている。何か情報を得たい時や方法を知りたい時、また困ったときにはいつでも気軽に話せて相談できる職員がいる。公民館と連携しながら、やってみたいという思いについてアドバイスをもらったり、地域の人とつながったり、地域にマルシェのことを発信したりしたことで、他世代や他団体と協力しながら実施することができた。

【成果と課題】

始まりの時には雨が降ったが、雨の中でも子供たちは作ったものを並べて一生懸命「買ってください」と声をだしていた。また雨が上がり、子供達に書いてもらった絵を会場に飾ったところ、我が子の絵を探すお母さんの姿が見られた。子供たちの声や笑顔は微笑ましく、子供たちが関わることで多くの世代にとって嬉しい、元気になる、行ってみようと思う場になることが分かった。

地元出身者によるエアロビワークショップ、地元中学生によるダンスパフォーマンスなど、子どもたちや若者の活躍できる場を作ることができた。さらに今回は自分たちで「もちつき実演販売！」を行ったが、餅をつく段取りなど先輩方のように行かず、「若い者の餅は形もバラバラじゃ」との声に悔しい思いをした。先輩方が当たり前のようにされているものを見てはきたが、実際にやることで大変さを学んだ。

環境に配慮した容器をできる範囲で協力してほしいことを、出店者会議の時に丁寧に伝えた。色々工夫をしてくださったお店もあったが、資金面から用意できないお店もあったため、努力した方から残念そうな声を聞き、取り組みを広げることの難しさを感じた。

今回やることで課題を見つけることができたが、出店者もほぼ完売。地域の方々は、「よかったなあ、頑張ったなあ」、「マルシェは来年もしてほしい」、「建部だけでこんなにお店ができるんだね。」という、たくさんの嬉しい感想を聞くことができ、仲間や地域の方々と一緒に大きな達成感を味わうことができた。

◆たけべおこし今後の展望

「たけべらしい」マルシェを継続してやっていきたい。また、今回やってみて気づいたことを活動に活かすために、先輩方に先生役になってもらい、知恵や技を子供だけでなく若者・親世代が体験でき、受け継げる場を作りたい。また、同世代ともっとつながり、たけべを元気にする仲間を増やすために、今後メンバーになりうる人との出会いの場としてコミュニティ居酒屋を定期的にしようと企画。そこでは年齢も関係なく地域の方と今後建部をどうしていくといいのか語れる場を作ろうと考えている。

さらに旧建部町時代に立町20周年を記念し、30年後に開封しようと埋められたタイムカプセルがある。平成30年が開封の年で、現在は「タイムカプセル実行委員会」を立ち上げる段取りを支所と協力して行っている。今たけべから離れたり地域に顔を出せていなかったりする人にも、この機会に戻ってきてもらい、一人でも多くの懐かしい顔や喜んだ顔に出会いたい。そして、住んでいてよかった、帰ってきたい場所として考えてもらえる機会にしたいと企画している。